

DOTS実施  
レポート 2

2020/10/15

## Web交流プログラム「DOTS」開催

## 実施概要

日時：2020年10月15日（木）16:15～17:00

場所：周南市立富田中学校・音楽室

- 内容：
- ① 英語を使った自己紹介
  - ② 日本の「生徒会」についての説明

参加者：**富田中学校** 生徒会執行部 11名**カプタ小学校** 8年生 6名

動画：当日の様子



## 参加生徒

## 富田中学校

2月に行われた立志式にてネパール・マラウイの生徒とZoom上でつながり、学年全体の約200名で歌を披露するという経験をしている。しかし、今回のように少人数で直接対話をするという機会は初めてだったため、接続前はとても緊張している様子だった。



## カプタ小学校

日本の中学2年生にあたる8年生が参加。英語を積極的にしゃべることのでき、リーダー格となっている優秀な生徒が教員によって選抜された。彼らにとっては今回が日本の生徒とつながる初めての機会であり、前日から名札を用意し、交流にむけた準備を行っていた。



## 交流内容

### 自己紹介

互いを知り、仲を深めることを目的に実施。  
 「名前、好きなもの」をテーマに一人ずつカメラの前に座り、  
 相手に向かって自己紹介をしていく。



- ・「どちらから自己紹介を行うか」という問いかけに対し、「自分たちから先にやりたい」と手が挙がったのはマラワイ側だった。首からぶら下げた大きな名札を見せながら、満面の笑みで自己紹介をしてくれた。
- ・名前の発音の難しさに少し戸惑いながらも、富中生たちはしっかりと相手の自己紹介を聞きながら、手を降ったり、名前を呼びかけたり、挨拶を交わしていた。
- ・日本側のターンが回ってきたとき、「自己紹介をする人?」という問い合わせに対し、自ら手を挙げて富中生も自己紹介を行った。英語による自己紹介は少し緊張しながらも、自分の好きなものを説明するときに、自然とジェスチャーを用いて説明する様子もみられた。
- ・最初はフルネームで自分の名前を紹介していたが、途中からマラワイ側が聞きとれていないと気づき、自分たちで「下の名前だけにしよう」と声を掛け合い、名前を強調するように大きな声で、ゆっくりと発音する工夫もみられた。
- ・一人ずつがみんなの前で自己紹介をするという機会を設けることによって、自然と拍手が沸き起こり、恥ずかしくて緊張しながらでもなんとか自分の英語で相手に伝えきろうという意思がそれぞれの生徒から見受けられた。

### 生徒会の紹介

互いの学校環境や文化の違いに気づくことを目的に実施。  
 富中生から「生徒会」の体制や役割について日本語で説明した。



- ・「生徒会とはなんですか?」という問い合わせに対して、学校の全校生徒が所属している生徒主体の組織だと説明。執行部はその中のリーダーとして学校行事の運営や、学校生活をよりよくするための各種委員会活動を実行する役割を担っていると話してくれた。
- ・各種委員会活動の例として、環境整備委員会を説明。学校に花を植えたり、全校生徒で行う清掃活動の目標を掲げたり、清掃行事を企画するといった活動内容について紹介した。
- ・カプタ小の生徒や参加していた先生は、「生徒会」という生徒中心の組織についてとても興味をもち、積極的にメモをとる様子がみられた。
- ・日本からの紹介が終わったあと、マラワイにも委員会活動のような取り組みはあると説明。例えば、ベル係。この係は、授業や休憩時間の始まりと終わりに校庭にある鐘を鳴らす役割を担っている。
- ・日本では校内放送でチャイムが鳴るが、マラワイでは校内放送などはないという学校環境の違いに富中生は驚きを隠せないようだった。また、当たり前だと感じる物事の違いを改めて気付かされている様子だった。

## 環境整備

	日本	マラウイ
アプリケーション	Zoom	Zoom
デバイス	教員用パソコン (Windows)	教員用パソコン (Mac Book)
インターネット	学校のインターネット (有線) ネット速度: 安定	教員のスマホからテザリング ネット速度: 安定
モニター	大型TVモニター 音量調整がスムーズにできた	なし。パソコン画面のみで対応
カメラ・マイク	外付けデバイスを使用	Macに内蔵されている

途中でマラウイのPCの充電が切れたことにより、接続が一時中断。事前に現地教員より前日からの停電でPCが十分に充電できなかったこと、接続が切れれば自分のスマホに切り替え対応すると連絡を受けていたため、その旨を富中生に説明。日本のような電気が安定し、Wi-Fiやインターネット環境がどこにでもある環境が当たり前ではないという学びにつながった。

## 参加した生徒の感想（一部抜粋）

- ・マラウイの子も普段英語ではない言葉を使っているから、緊張したり途中から緊張がとけてきている様子を感じることができて、同世代だなど感じられた。英語をもっと話せるようになって、通訳を介さずに自分で話せるようになりたい。
- ・委員会などの学校での役割がそれぞれあることに親しみを感じた。英語や言葉がすぐに出てこないけど、お互いに伝えたいことが通じるととても楽しかった。
- ・笑顔がとても素敵で優しそうな人たちだとおもった。はるか遠くにいるあったこともない人たちと、リアルタイムでつながって話すことがすごく不思議だった。せっかくな貴重な時間だから、聞いてみたいことも事前に自分で考えておきたい。
- ・マラウイでは停電があったり、水道がなくて井戸で水を組むということを聞いて、改めていまの自分の環境に感謝したいとおもった。マラウイでもコロナ対策をしていて、世界中で戦っていることがわかった。
- ・水で手を洗うだけでも大変そうだった。自分がとても恵まれていることを改めて実感した。

## これからの交流にむけて

### 次の交流

- ・日程: 11月20日 (金) 16:15 ~ 17:00 (予定)
- ・参加生徒: 今回の交流と同様
- ・交流内容: ①生徒会の活動内容を具体的に紹介 ②クラス運営、係の紹介